

●事例紹介●

大島町ふるさと文化祭と 商船祭との共同開催

辻 啓介

(大島商船高等専門学校商船学科教授・前学生主事)

一 まえがき

一月三日の本校は恒例の「商船祭&大島町ふるさと文化祭(共同文化祭)」で賑わう。(写真1)平成六年以来、地元大島町(昨年一〇月、大島島内四町合併で周防大島町となる)の「文化の日」行事と本校学園祭を共同開催している。若者主体の商船祭に加え保育園児から高齢者までが楽しめる大島町最大の町民参加の催し物である。

高専昇格の二年後、昭和四四年秋に学生会主催行事の文化祭・学園祭の行事として第一回商船祭を開催し毎年一月に行っていた。その後、卒業生等から「商船祭開催日の固定」が要望され、一月三日に固定して開催していたが、

文化の日には大島町ふるさと文化祭があり、お客を奪い合うことになっていた。平成五年秋、当時の山元大島町長と山崎校長が共同開催に合意し、次年度からの開催に向けて検討した結果、商船祭当日に第二体育館および校庭を大島町ふるさと文化祭メイン会場とする「共同文化祭」として本校を会場に開催することになった。

平成六年一月三日、最初の共同文化祭(第二回商船祭)には、本校校庭に三〇〇〇人を超える人出があった。その様子は「広報すおう大島」四二七号(平成六年二月刊行)に見ることができる。(写真2は表紙を飾った本校伝統の国旗踊り。写真3は様子を伝える記事)。以降、一年間「共同文化祭」は続いている。

今回は、昨年まで四年間、学生主事として取り組んだ

「共同文化祭」について、町との打ち合わせから始まる準備作業および当日の様子などについて紹介する。

二 大島町との打ち合わせ

例年、夏休み明けの九月初旬と一〇月初旬に二回の「合同文化祭打ち合わせ会議」を行う。(今年度は本校教務日

程の変更で第一回を七月に行った)本校側の参加者は学生主事室および学生係商船祭担当者・学生会長および商船祭実行委員である。町側は教育事務所の担当者二名である。会議は詳細にわたり丁寧に検討され、四時間に及ぶこともあった。

第一回会議では、前年度の反省点および本年度実施計画等の提示と内容の検討を行う。実施計画では、催し物が競合していないかをチェック、特にバザー関係で競合する場



写真1 第35回商船祭&周防大島町ふるさと文化祭(平成16年11月3日)

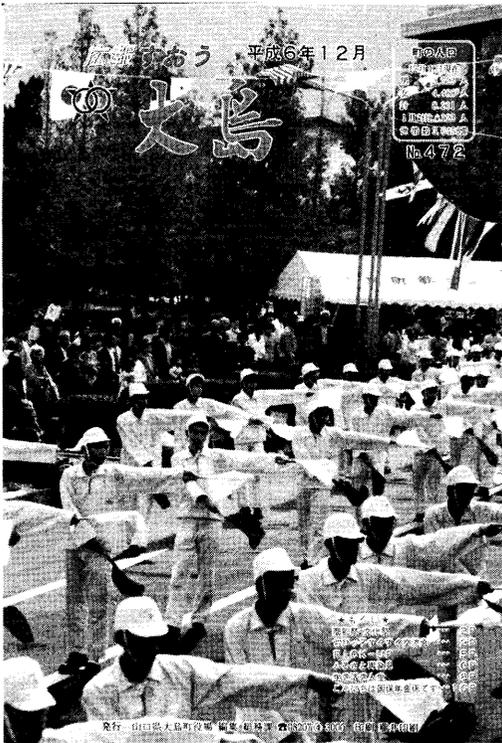


写真2 国旗踊り(広報すおう大島No.472の表紙)



写真3 第1回共同文化祭を伝える町の広報誌(広報すおう大島No.472より)

特集・学園祭

隊・小学校ユーカリバンドのドリル演奏が行われ、最高に盛り上がる時である。保育園・小学校の保護者の方々はこの時間に合わせて来校し、昼食をお好みのバザーでとることになる人が多く、売り上げに貢献している。

第二体育館の町文化祭の展示(写真4)には、木目込み人形・生花・書道・俳句から写真・絵画等芸術作品に至るまでの多数の作品が並び、人出が絶えることがない。また、体育館横には二〇近いテントが並び、体育館横には二〇近いテントが並び、商工会・老人クラブなど町内諸団体のバザーが開かれ、メインストリートから体育館への通路に並ぶ学生のパザーテントとともに町民と学生の交流の場となっている。

図書館一階ホールでは、本校吹奏楽部・詩吟部・和太鼓同好会など文化部の発表会が行われ、その合間に小学校の演奏(写真5)、保育園の和太鼓などが披露される。また、一角では茶道部が同好の町民の方と共同でお茶会を開催している。文化部には町民の方に指導して頂いているものが多く、



写真4 町文化祭の展示(第二体育館)



写真5 地元小学校の演奏(図書館ロビー)

日頃の成果を披露している。

平成一五年度には後夜祭で花火の打ち上げを行った。後夜祭は学生だけの催しであったが、後夜祭にも町民に楽しんで頂くイベントとして計画した。校庭の広さと隣接住宅との距離など心配をしたが、実行委員が周辺住宅を回りました承をして頂き、また、花火業者や消防署にも何回も足を運

当日は九時から一五時まで行われるが、例年八時半ころから人手がある。目的は田布施農業高校大島分校のバザーと午前の大島丸体験航海の整理券である。分校のバザーでは、花や苗木・加工食品の販売が行われ、例年、最も早く売り切れの出るバザーである。勤労感謝の日に行われる「農高祭でしようぞー」と案内板が昼までに出ることが多い。また、九時から配布する大島丸体験航海(午前)の整理券のために受付に行列ができる。

正門から正面玄関にかけてのメインストリートでは、正午の手旗踊り・商船神輿を中心に、その前に保育園鼓笛

合には変更や価格の統一について調整する。催し物開催予定場所が適当であるか、準備日程等に問題はないかを検討し、問題点がある場合には次回までに担当者で調整をする。調整の一例としては、昨年度「中越地震」に対する募金箱を受付に両者が設置する計画であったが、本校学生会の募金箱だけとして、後の処理を町に委ねた。

第二回会議では、第一回会議以降の調整内容を確認して最終実施計画案を決定する。内容は、イベントなどの時間調整・参加者の意向を考慮して準備・当日・後片付けのスケジュールの決定・事前の広報活動等について調整する。

三 当日の様子

当日は九時から一五時まで行われるが、例年八時半ころから人手がある。目的は田布施農業高校大島分校のバザーと午前の大島丸体験航海の整理券である。分校のバザーでは、花や苗木・加工食品の販売が行われ、例年、最も早く売り切れの出るバザーである。勤労感謝の日に行われる「農高祭でしようぞー」と案内板が昼までに出ることが多い。また、九時から配布する大島丸体験航海(午前)の整理券のために受付に行列ができる。

正門から正面玄関にかけてのメインストリートでは、正午の手旗踊り・商船神輿を中心に、その前に保育園鼓笛

び花火大会を開催した。結果は周辺住民および町民にも好評であり、一六年度の打ち合わせ会議では町から「花火はやりませうか」と聞かれる状況で、今後とも欠かせないイベントになるであろう。

受付・警備等の裏方作業についても、町と学生会の共同で行い、正門近くの交通整理および駐車場整理には制服を



写真6 正門で交通整理する学生と町のスタッフ(平成15年度)

着た学生とスタッフ服を着た町職員が行っている(写真6)。また、会場のゴミ処理には、会場内数か所に六個のゴミ箱を並べ、その横で学生と町職員がゴミ分別を指導している。正確にカウントしたことはないが配布したパンフレット数等から、例年二〇〇〇人を超える人出があると思われる。平成一五年度は午前中の天候の影響を受け、校庭は閑散としていたが、体育館や校舎内の催し物には例年と変わらない人出があった。伝統の手旗踊り・商船神輿(写真7)

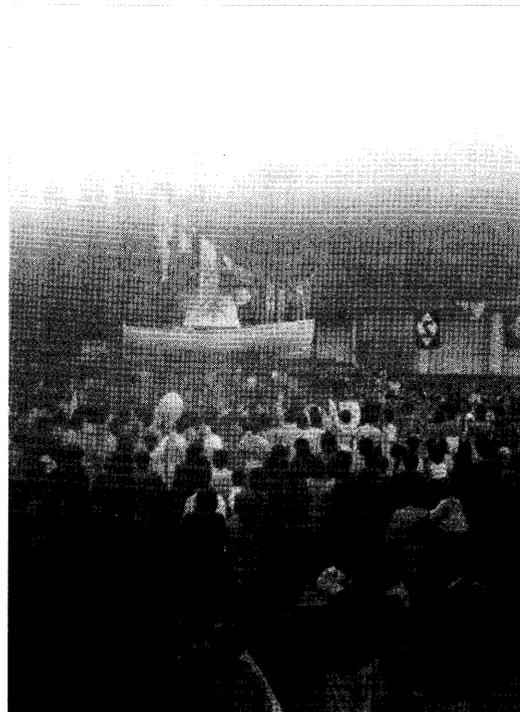


写真7 雨中に繰り出された商船神輿(平成15年度)

等の見物には荒天にもかかわらず例年と変わらない人出であった。

四 後片付け

例年、終了時刻の一五時前には、バザーがほぼ完売状態となり後片付けに入る。おもだった展示物等の撤収については各担当者で当日夕刻(後夜祭)までに行う。町文化祭の屋外テントおよび掲示板等物品については翌日午前の搬出となる。後夜祭会場の第一体育館とともに、翌日午前に町職員および全学生で後片付けを行い、午後からは通常授業としている。学生の代休は冬休み前に設定している。

後片付けの最大の問題点はゴミの処理である。全体の片付けが終わった後に、学生会役員および商船祭実行委員と町職員で分別作業を行い、直ちに町ゴミ処理場に運び出す。後夜祭と並行して行ったこともある。ゴミ処理指導を行うようになってからは少し楽になったようである。

五 あとがき

初期にはいろいろな問題点があったと聞いているが、一〇年を経過した今では問題点は感じない。第二体育館の事前準備が授業中に行われることから授業(体育)・課外活

動との関連に十分な調整が必要である程度である。しかし、例年通りとならない問題もある。それは開催日の曜日で、町職員の作業は平日が基本となる。この時期の運動部の県大会があり、第二体育館を使うクラブの練習計画についての配慮が必要である。

共同文化祭となつて、商船祭に高齢の方の姿が多くなつたように感じる。単に若者の祭りであった商船祭を全町民と楽しめる祭りになったことが最大の評価点である。以前であれば、町文化祭を訪れるだけであった人達に、本校に来て研究室や実験室公開なども見て頂けることで、本校に對する考えも変わってきたのではないだろうか。

昨年度、四町合併で「周防大島町誕生記念」としたが旧大島町との共同文化祭とのイメージがあった。島内の高校吹奏楽部に対してイベント参加を呼びかけたが、それぞれの旧町における文化の行事のために実現しなかった。一月三日のイベントの方針が新町においてまだ十分に煮詰められていない。本年度の準備として、すでに第一回打ち合わせ会議を大島教育支所との間で行い、今のところ例年通りで準備を進めている。今年も盛大な商船祭になることを願いつつ、新町全体との共同文化祭として今後も続くことを期待したい。